

公募要領

橋渡し研究プログラム

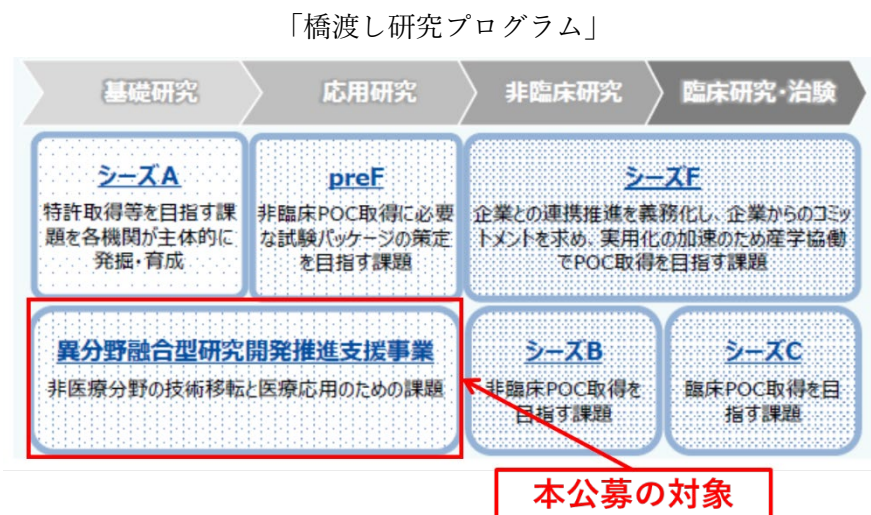
(対象：医歯薬以外の研究者)

- ・ シーズ A (2026 年度 2 次公募)
- ・ 異分野融合型研究開発推進支援事業 (2026 年度 1 次公募)

2025 年 11 月 17 日

東北大学病院臨床研究推進センター

東北大学病院臨床研究推進センター（CRIETO）ではこれまで、日本医療研究開発機構（AMED）が実施する橋渡し事業の拠点として多くの研究課題の採択を受け、医薬品・医療機器等の実用化支援に貢献して参りました。この度、文部科学大臣が認定した橋渡し研究支援機関の基盤を活用する「橋渡し研究プログラム」における申請課題の公募を行います。



■ 応募に関する諸条件

- 異分野融合型研究開発推進支援事業（以下、異分野）に応募する場合は、研究代表者が医学、歯学、薬学系所属以外であること。
※医学・歯学・薬学系以外の所属でも、病院等と兼務している医師・歯科医師等は応募できない場合があります。詳細はお問合せください。
- 医薬品・医療機器等として実用化を目指すシーズのうち、シーズ A と異分野の実用化枠・リスクの高い医療機器枠（クラスⅢ・Ⅳ）を希望するシーズは、おおそ以下の開発段階にあるものとする。ただし、以下の開発段階に満たないものの、シーズとしてのポテンシャルが有ると判断された課題（注）についても、シーズ A（萌芽枠）または、異分野（萌芽枠）として採択するため申請可能である。
- 医薬品：初期のスクリーニングが完了してヒットプロダクトが決まっており、研究期間で最適化を行うリードプロダクトの決定を目指すシーズ
医療機器：試作機の設計検証段階に入っており、研究期間で動物試験等による評価・検証を目指すシーズ

注：「シーズとしてのポテンシャルが有ると判断された課題」とは、既存技術と比べて有用性や安全性が高い、新規性が高い、コストメリットが大きい等の観点から実用化が期待される課題をいう。

また、異分野の医療機器枠(実用化枠もしくはリスクの高い医療機器枠(クラスⅢ・Ⅳ))に応募いただいた場合、当センターの判断によりその機器の特性・仕様等を精査したうえで、「実用化枠・萌芽枠」もしくは「リスクの高い医療機器枠」に変更させていただきます。

く場合がございますことご了承ください。

- ・ 橋渡し事業でシーズ B、C として研究費を獲得したことがある課題は応募できない。
- ・ 課題に係る研究を実施する研究者が国内の大学、研究開発機関等に所属していること。
- ・ 東北大学以外の橋渡し研究支援機関に、2026 年度のシーズ A、若しくは異分野シーズとして既に採択されている課題、若しくは申請を予定する課題は応募できない。
- ・ 同じ研究課題で、同一区分での採択は上限 2 年間までとする。ただし、萌芽枠と実用化枠は別区分とみなす。
- ・ 以下の内容 (①～⑦) に同意の上で応募すること。同意のご意思を確認させていただくことを目的として、採択後に以下の内容を記した覚書にご署名いただくことがあります。
 - ① 課題に係る研究は、「課題申請書」に記載した内容に従って進めること。
 - ② 四半期～半期に 1 回の割合で研究進捗、予算執行状況、及び特許出願支援等について、CRIETO によるヒアリングや問合せ等にご対応いただくこと。また、支援終了時には成果報告書を CRIETO に提出し、研究の成果をご報告いただくこと。
 - ③ 配分される研究費の一部が CRIETO の規定に基づく所定の支援料に充当されることをご了承いただくこと。
 - ④ 課題に係る研究については、CRIETO の支援の下、非臨床 POC の取得、治験等を進めた上で、医薬品又は医療機器等としての実用化を目指すこと。
 - ⑤ 課題に係る研究については、CRIETO の開発候補課題として登録されることに同意し、当該年度の支援終了後も CRIETO からの研究進捗等の確認にご対応いただくこと。
 - ⑥ 課題に係る研究の成果は、CRIETO に関連するセミナー、報告会等での発表を要請されることがあることをご了承いただくこと。
 - ⑦ 異分野の採択シーズについては、CRIETO が提供するセミナーを必ず受講していただくこと。

■ 採択課題数、研究費、研究期間、支援内容

<採択課題数>

◆ シーズ A： 25 課題程度（年 2 回実施される公募の合計）

- ・ 実用化枠： 20 課題程度
- ・ 萌芽枠： 5 課題程度

※ 今回の 2 次公募では 20 課題程度(継続課題も含む)

◆ 異分野： 15 課題程度

- ・ リスクの高い医療機器枠（クラスⅢ・Ⅳ）： 5 課題程度
- ・ 実用化枠・萌芽枠： 10 課題程度

<研究費>（今回の公募に採択された場合の金額）（支援料、間接経費含まず）

◆ シーズ A

- ・ 実用化枠： 200 万円程度
- ・ 萌芽枠： 150 万円程度

◆ 異分野

- ・ リスクの高い医療機器枠（クラスⅢ・Ⅳ）： 200 万円程度
- ・ 実用化枠・萌芽枠： 150 万円程度

<研究期間>

- ・ シーズ A： 2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日
- ・ 異分野： 2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

支援内容、支援料について

<異分野>

		異分野		
		リスクの高い医療機器枠 (対象：クラスⅢ・Ⅳ)	実用化枠	萌芽枠
支援方針		・メンタリングを随時実施し、ニーズとのマッチング、シーズの価値最大化、臨床的意義の明確化を行い、開発計画を作成します。進捗が見られるシーズについては、PMDA相談を実施し、実用化への道筋をつけていきます。 ・特許等を最も良いタイミング・内容で出願すべく、知財戦略の立案をはじめとする適切な知財支援を行います。	・メンタリングを随時実施し、ニーズとのマッチング、シーズの価値最大化、臨床的意義の明確化を行い、開発計画を作成します。進捗が見られるシーズについては、PMDA相談を実施し、実用化への道筋をつけていきます。 ・特許等を最も良いタイミング・内容で出願すべく、知財戦略の立案をはじめとする適切な知財支援を行います。	・メンタリングを随時実施し、開発の方向性を検討していきます。 ・特許等を最も良いタイミング・内容で出願すべく、知財戦略の立案をはじめとする適切な知財支援を行います。
主な支援内容		・メンタリング ・ ☒ 事業戦略策定 ・ ☒ 開発ロードマップ作成 ・ ☒ MDA相談支援 ・ ☒ ミナー提供 ・知財戦略策定等(必要に応じて)	・メンタリング ・ ☒ 事業戦略策定 ・ ☒ 開発ロードマップ作成 ・ ☒ MDA相談支援 ・ ☒ ミナー提供 ・知財戦略策定等(必要に応じて)	・メンタリング ・ ☒ ミナー提供 ・知財戦略策定等(必要に応じて)
経費関連	研究費 (支援料および 間接経費は含まず)	2,000千円	1,500千円	1,500千円
		※採択数に応じて増減する可能性があります ※課題申請書5.必要経費は、下記の知財支援料および開発伴走支援料を含めた金額を記載して頂くことになります。		
	使途に制限のある経費	論文投稿費・学会発表および参加費、人件費（謝金として対応できるものは除く）、 特許出願に係る費用は計上できません。		
	研究費による特許出願	×		
	知財支援料	0～500千円 ※支援が必要な場合、計上のご相談をさせていただきます。		
	開発伴走支援料	400千円（必須）	300千円（必須）	300千円（必須）
研究期間		2026年4月1日(予定)～2027年3月31日		

<シーズ A>

		シーズA	
		実用化枠	萌芽枠
支援方針		・メンタリングを随時実施し、シーズの価値最大化、臨床的意義の明確化を行い、開発計画を作成します。 ・特許等を最も良いタイミング・内容で出願すべく、知財戦略の立案をはじめとする適切な知財支援を行います	・メンタリングを随時実施し、開発の方向性を検討していきます。 ・特許等を最も良いタイミング・内容で出願すべく、知財戦略の立案をはじめとする適切な知財支援を行います
主な支援内容		・メンタリング ・ ☒ 事業戦略策定 ・ ☒ 開発ロードマップ作成 ・ ☒ 知財戦略策定 ・ ☒ 行技術調査 ・ ☒ 特許等の出願支援 ・ ☒ ミナー提供	・メンタリング ・ ☒ ミナー提供 ・知財戦略策定等(必要に応じて)
経費関連	研究費 (支援料および 間接経費は含まず)	2,000千円	1,500千円
		※採択数に応じて増減する可能性があります ※課題申請書5.必要経費は、下記の知財支援料および開発伴走支援料を含めた金額を記載して頂くことになります。	
	使途に制限のある経費	論文投稿費・学会発表および参加費、人件費（謝金として対応できるものは除く）は計上できません。	
	研究費による特許出願	○	
	知財支援料	500千円（必須）	0～500千円 ※支援が必要な場合、計上のご相談をさせていただきます。
	開発伴走支援料	200千円（必須）	200千円（必須）
研究期間		2026年4月1日(予定)～2027年3月31日	

■ 公募スケジュール：

【シーズ A】

- ・ 2026 年度 1 次公募： 2025 年 6 月実施済
- ・ 2026 年度 2 次公募： 2025 年 12 月 12 日（金）締切（今回の公募）

【異分野】

- ・ 2026 年度 1 次公募： 2025 年 12 月 12 日（金）締切（今回の公募）
- ・ 2026 年度 2 次公募： 現時点で未定

■ 応募の方法・締切

必要事項を記載した課題申請書を以下のメールアドレスまでお送りください。

- ・ 課題申請書提出締切： 2025 年 12 月 12 日（金） 午後 5 時必着
- ・ 提出先： hos-crieto_review@grp.tohoku.ac.jp

※ 正確な選考を行う為、申請書記載にあたり以下にご留意ください。

- ・ 各種試験での試料の濃度・用量、図表を示す場合には、科学論文と同様に説明文 (legends) を可能な限り正確に記載して下さい。
- ・ 競合研究・類似研究を可能な限り記載して下さい。
- ・ 特許の出願状況、出願予定を漏れなく記載して下さい。

■ 選考スケジュール

<新規課題（異分野・シーズ A）>

書類審査： 2025 年 12 月中旬～2026 年 1 月中旬

ヒアリング： 2026 年 1 月 27 日（火）17:00～20:00（必要時実施）

結果通知： 2026 年 2 月上旬（予定）

※2025 年度異分野採択課題の 2026 年度新規申請に関して

- ・ 今回の公募に限り、2025 年度採択課題と同一枠・同一課題での申請を可と致します。
(2025 年度異分野事業支援シーズについて、新規として採択された研究期間が半年程度と短く、適切な評価ができ兼ねる為、2026 年度支援継続の選考は実施しないこととなりました)

※ヒアリング審査に関して

- ・ ヒアリング審査の予定を確保しておいてください。ヒアリング審査については、書面審査後に対象課題が決まり次第、対象課題の研究代表者及び連絡窓口担当者へ連絡致します。
- ・ 原則、研究代表者が発表してください。
- ・ ヒアリングは Web 開催となります。

・ボーダーライン付近の課題を中心に、ヒアリングが必要と判断した課題に対してヒアリング審査を行いますので、最終的な採否については選考結果通知を連絡するまでお待ちください。

<継続課題（シーズ A のみ）>

内部評価： 2025 年 12 月上旬～2026 年 2 月上旬

結果通知： 2026 年 2 月上旬（予定）

※2025 年度異分野事業支援シーズについて、新規として採択された研究期間が半年程度と短く、適切な評価ができ兼ねる為、2026 年度支援継続の選考は実施しないこととなりました。

2026 年度の支援については、<新規課題（異分野・シーズ A）>の記載をご確認下さい。

■ 選考方法

当センターの選考委員会において、以下の選定基準を総合的に勘案して、採否を決定致します。

【選考基準】

①革新性

- ✓ 臨床的意義・・・どのような医療の課題を解決できるか
- ✓ 差別化のポイント・・・既存の医薬品・医療機器や治療・診断方法と明確な差異（メリット）があるか
- ✓ アカデミア開発の必要性・・・アカデミアとして開発すべき課題か

②実用化可能性

- ✓ 開発計画の妥当性・・・具体的なマイルストーンと、実行可能な実施期間が示されているか
- ✓ 研究開発体制・・・実用化に向けた臨床医、企業、その他研究機関等との連携体制があるか、または構築できそうか
- ✓ 知的財産権の確保・・・実用化を見据え、将来的に実現を目指す医薬品・医療機器等が十分に保護できると考えられる特許を既に出願済、若しくは研究期間内に出版可能であるか

③応募条件への適合性

- ✓ 申請課題が公募要領に対して適切な開発段階であるか
シーズ A と異分野（リスクの高い医療機器・実用化枠）に申請する開発段階として、具体的には以下を想定しています。
 - 医薬品：初期のスクリーニングが完了してヒットプロダクトが決まっており、研究期

間で最適化を行うリードプロダクトの決定を目指すシーズ

- 医療機器：試作機の設計検証段階に入っており、研究期間で動物試験等による評価・検証を目指すシーズ

※シーズ A・異分野ともに、審査にて上述の開発段階に満たないものの、シーズとしてのポテンシャルが有ると判断された課題（注）についてもシーズ A(萌芽枠)、異分野（萌芽枠）として採択いたします。

注：「シーズとしてのポテンシャルが有ると判断された課題」とは、既存技術と比べて有用性や安全性が高い、新規性が高い、コストメリットが大きい等の観点から実用化が期待される課題をいう。

■ 採択後の支援方針

【シーズ A；実用化枠】

- メンタリングを随時実施し、開発早期段階で解決すべき課題を抽出・整理して、開発ロードマップの作成を行う。
- 特許等を最も良いタイミング・内容で出願すべく、知財戦略の立案をはじめとする適切な知財支援を行う。
- 開発研究を行いつつ、必要に応じて、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）による相談等で実用化への道筋をつける。

【シーズ A：萌芽枠】

- 実用化への確度を上げる基礎研究を中心に進めつつ、面談等を介して開発の方向性を検討する。
- 特許等を最も良いタイミング・内容で出願すべく、知財戦略の立案をはじめとする適切な知財支援を行う。

【異分野：リスクの高い医療機器枠】

- メンタリングを随時実施し、開発早期段階で解決すべき課題を抽出・整理して、開発ロードマップの作成を行う。
- 進捗が見られるシーズについては独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）による相談等で実用化への道筋をつける。
- 特許等を最も良いタイミング・内容で出願すべく、知財戦略の立案をはじめとする適切な知財支援を行う。

【異分野：実用化枠】

- メンタリングを随時実施し、開発早期段階で解決すべき課題を抽出・整理して、開発ロードマップの作成を行う。
- 進捗が見られるシーズについては独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）による相談等で実用化への道筋をつける。

- 特許等を最も良いタイミング・内容で出願すべく、知財戦略の立案をはじめとする適切な知財支援を行う。

【異分野：萌芽枠】

- 実用化への確度を上げる基礎研究を中心に進めつつ、面談等を介して開発の方向性を検討する。
- 特許等を最も良いタイミング・内容で出願すべく、知財戦略の立案をはじめとする適切な知財支援を行う。

■ その他

ご応募いただいた研究課題に関する研究内容、個人情報等の秘密情報につきましては、当該公募に係る選考及び、当センターからの公募やセミナー案内に使用し、他者に開示又は漏洩せぬよう CRIETO で厳重に管理いたします。

以上